

番組審議委員会議事録

株式会社 衛星劇場

1. 開催年月日 平成 24 年 1 月 25 日（火） 12 : 00 ~ 13 : 30
2. 開催場所 銀座東武ホテル
3. 委員の出席 委員総数 7 名
出席委員数 5 名 （山内静夫、品田雄吉、田中康義、
堀江ミエ子、小山観翁）
欠席委員数 2 名 （伊藤信太郎、坂田藤十郎）
4. 放送事業者側出席 5 名 （油谷昇 [代表取締役社長]、山崎克己[監査役]、
井田寛[常務・編成担当]、藤本弘之[取締役・営業担
当]、尾崎誠[編成部長]）
5. 議事の概要
 - ・衛星劇場及びホームドラマチャンネルの現状報告
 - ・今後の放送番組について
 - ・その他
6. 議事内容
 - 衛星劇場チャンネル
 - ・今期は歌舞伎チャンネルの閉局を始め、様々なコスト削減策を講じた事、並びにホームドラマチャンネルの e2 基本パック参入が収入の下支えとなった事から、今期は大幅な黒字となった。
 - ・映画館とのタイアップ企画や、開局以来放送を続けてきたデフシアターの字幕付き、手話付きで上映会を開催するなど、放送と連動した企画も行うことが出来た。
 - ・韓流は競合チャンネルが増えて、話題となるドラマを取ることが前以上に難しくなってきた。それでも、プレミアムチャンネルとしては、四半期に一度は、目玉の韓国ドラマを放送することで、加入につなげていきたい。
 - ・歌舞伎チャンネルの放送を辞めたことで、衛星劇場内で歌舞伎を帯で編成し、歌舞伎チャンネル加入者の移行にも繋がった。舞台+映画の特集を組むことがで

きるのは衛星劇場ならではの企画なので、歌舞伎だけを見ていたファンに新たな魅力を伝えることが出来る。

○ホームドラマチャンネル

- ・e2の基本パックに入ることが出来て、加入の増加につながった。
- ・韓国+時代劇+国内ドラマの3本柱で、それぞれのファンに向けて編成をしている。
- ・年末やGWには特別編成組み、視聴率獲得に努めた。
- ・バラエティも少しずつ取り入れていき、80年代に人気のあった「11PM」や「お笑いスター誕生」などを編成することで、一般紙などにも取り上げられた。
- ・衛星劇場だけでなく、ホームドラマチャンネルでも、韓国ドラマの日本初放送を取りにいくよう努めている。

○営業報告

- ・韓国ドラマの反響がやはりすごく、両チャンネルとも頼っている。
- ・プラットフォームは大きく分けて3つ。従来のスカパーは外付けチューナーが必要なので、2006年をピークに減少傾向。またe2は内蔵チューナーで対応出来るため、見る事が出来る環境は増加。ケーブルテレビは、全国2500万世帯あるが、有料チャンネルを取るのは、750万世帯。
- ・スカパーもケーブルもデジタル化に移行したいが、チューナーを変えないといけないため、視聴者のスムーズな移行につながっていない問題がある。
- ・BSの市場は今年3月にも7チャンネル増えることで、31チャンネルになる。
- ・上記状況を踏まえて、CSだけではなくBSにも目を向けていくことが求められる。

以上